

# 過年度に実施した測量及び環境調査

資料-3



R4.10.26撮影

神奈川県藤沢土木事務所なぎさ港湾部

## 測量調査

### ①測量結果

## 環境調査

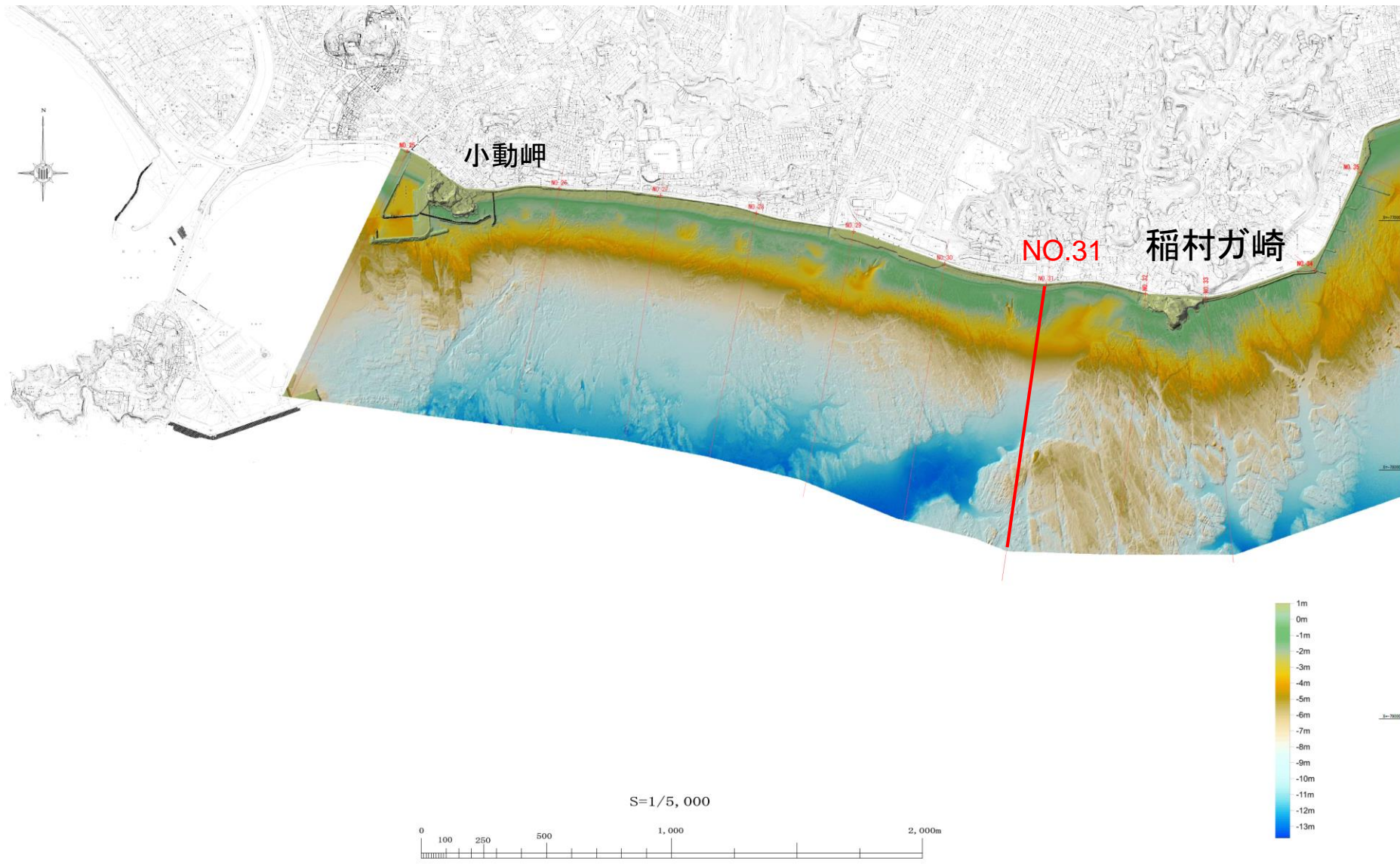
②底質の経年変化（H30～R3）

③藻場の経年変化（H30～R3）

④水産有用種の経年変化（H30～R3）

# ①測量結果 七里ガ浜鳥観図（R4年1月計測）

- R3年度調査として、R4年1月に航空レーザー測深（面的測量）を実施。
- 過年度においては、深淺測量（図中赤線部の断面測量）を実施。

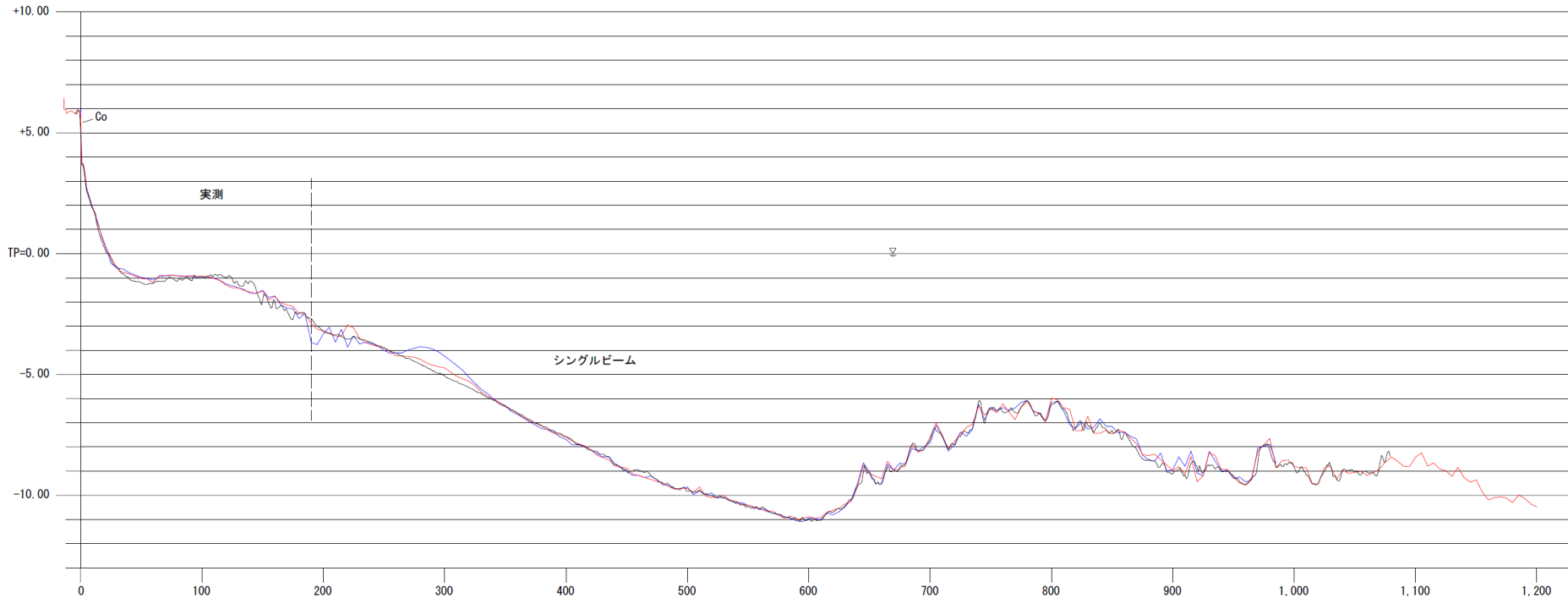


# ① 測量結果 No.31 移動現況断面図 (R2-R4)

■ 経年で断面的な深淺測量を実施。

N.31について、R2年からの2年間では断面形状は、T.P.-5m付近の侵食以外は変化が小さい。

NO. 31

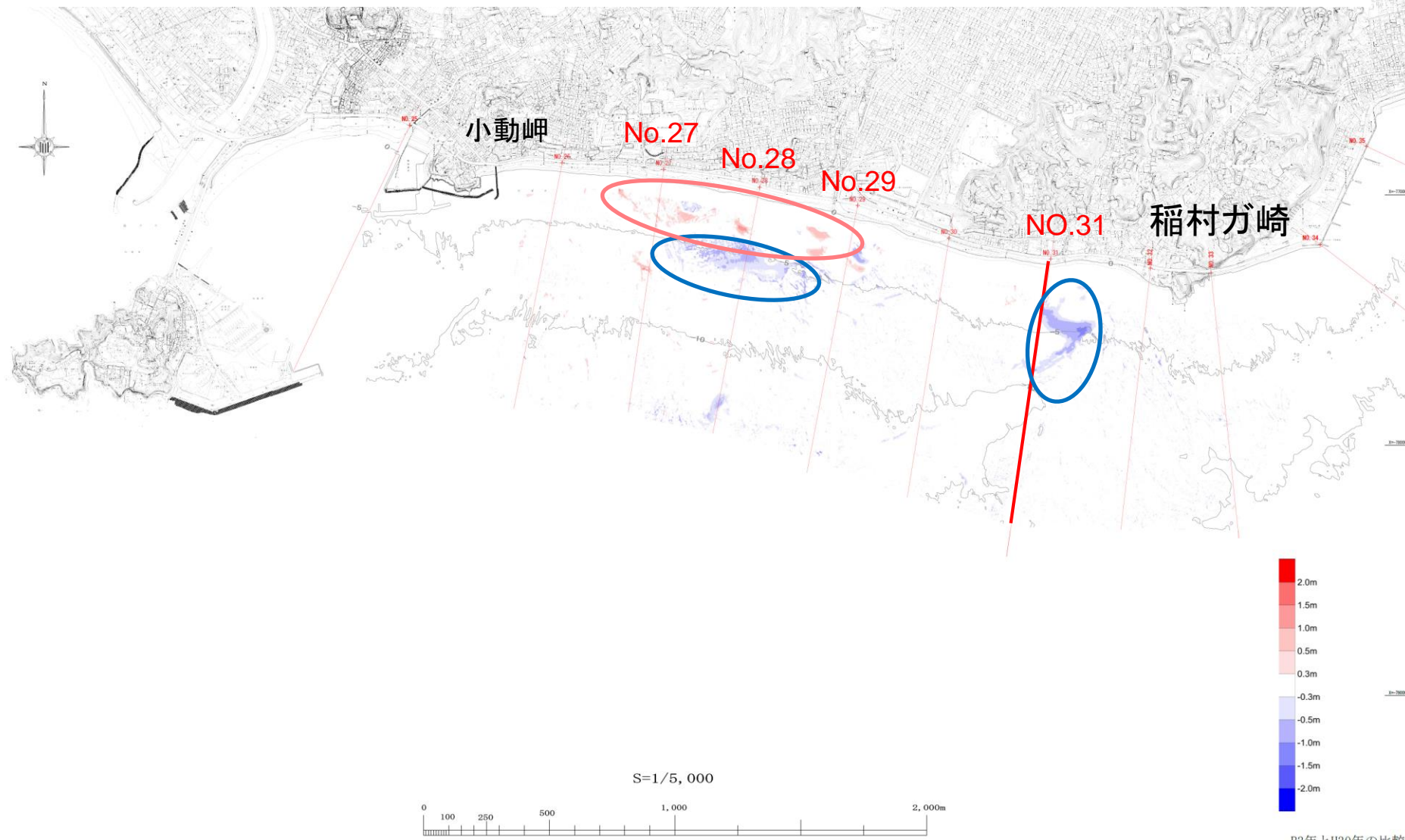


- R 2年1月 (シングルビーム)
- R 3年1月 (シングルビーム)
- R 4年2月 (航空レーザー測深)

工事名	令和3年度 海岸補修工事 県単 (その25) 海岸高潮対策工事 県単 (その13) 合併 測量業務委託
図面名	移動現況調査断面図 (NO. 31)
作成年月	令和4年3月
縮尺	V = 1/200 , H = 1/4,000
事業者名	神奈川県藤沢土木事務所

# ①測量結果 H30-R3 差分図（近年の変化）

No.28のT.P.-5m付近、No.31東側で侵食傾向（青色）が見られる。  
No.27～ No.29のT.P.-3m付近では堆積傾向（赤色）が見られる。

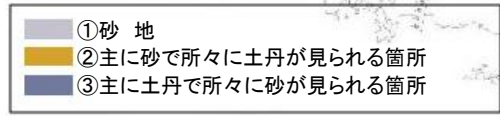
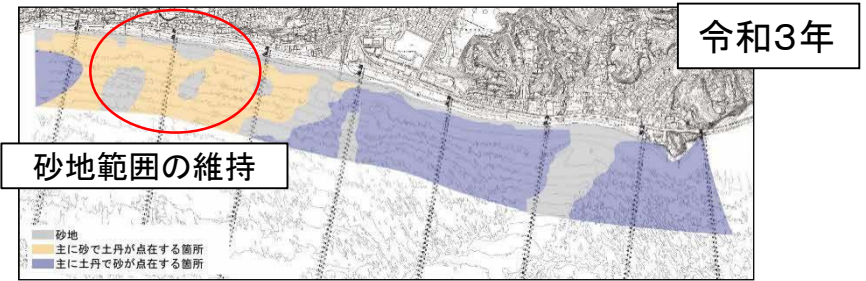
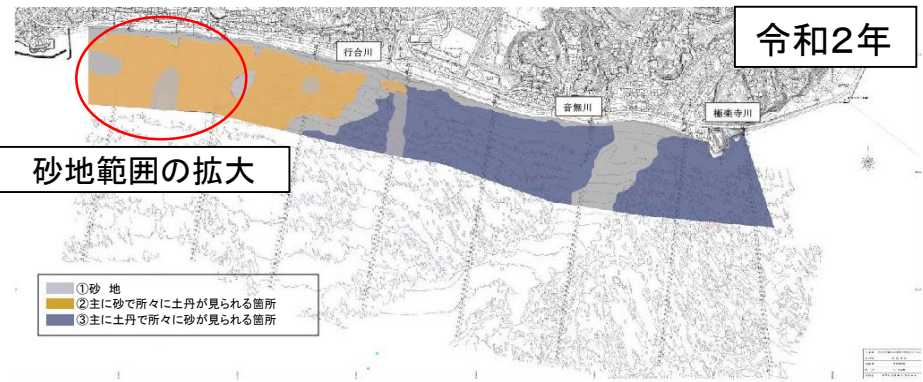
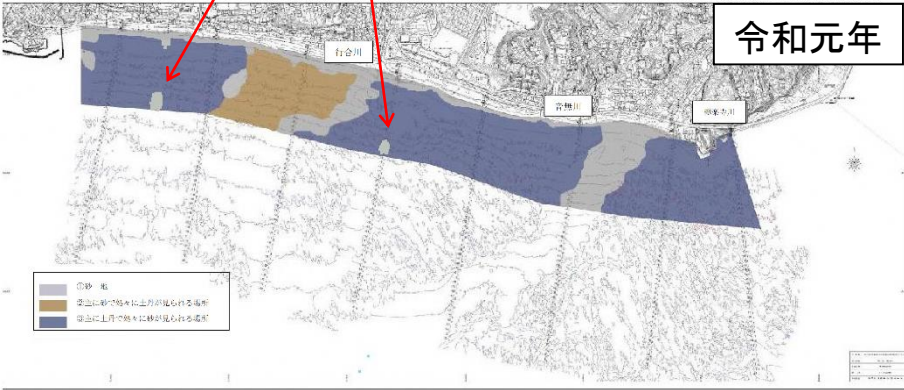
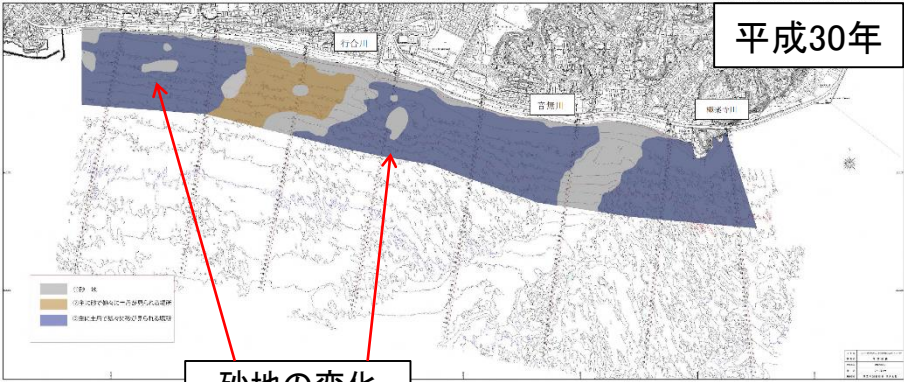


R3年とH30年の比較

# ②底質 底質分布の経年変化（H30～R3）

■検討対象区域内において、潜水士による目視観測、写真撮影を実施。


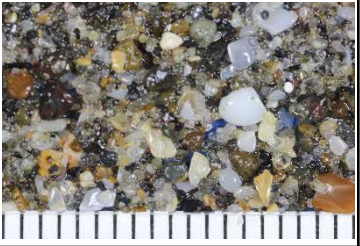


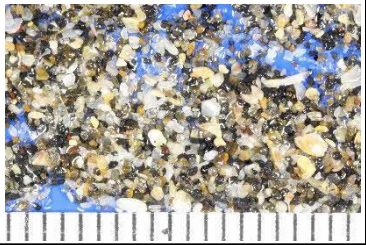


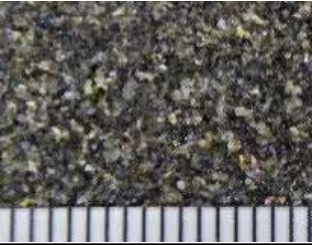
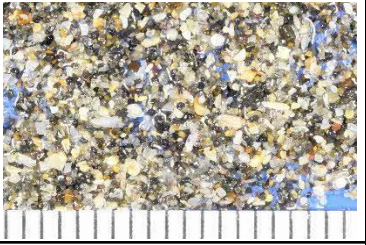
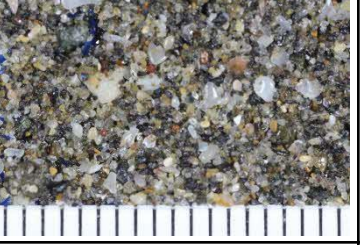
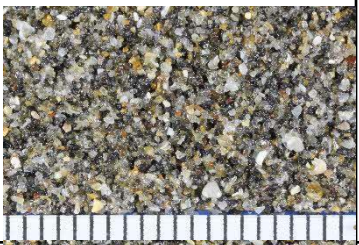
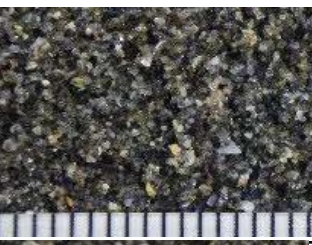
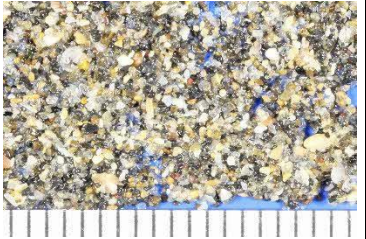



令和2年から西側で砂地範囲が拡大している。



# ②底質 土砂粒径の経年変化

■既往調査測線の各水深ごとに底質の性状を把握。

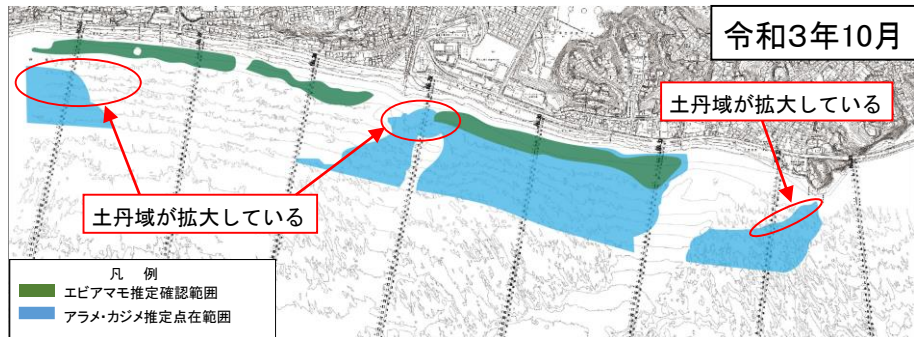
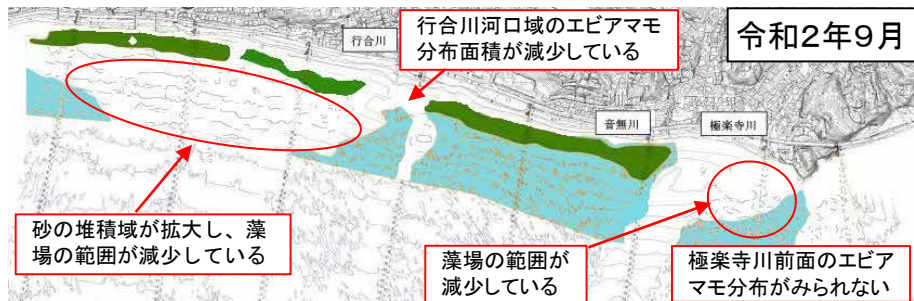
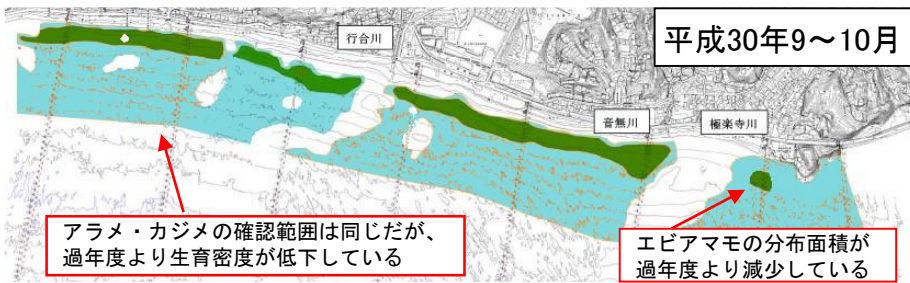
土丹主体から砂の割合増加が見られるNo.27 (鎌倉高校付近) では、T.P.±0m付近で粒径が細くなり、他の水深と同様の粒径になってきている。

標高(T.P.)	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
±0.0m				
-1.0m				
-2.0m				
-3.0m				

# ③藻場 エビアマモ分布域、生育面積の推移

■検討対象区域内において、潜水士による目視観測、写真撮影を実施。

鎌倉海岸では、エビアマモの生育が可能と考えられる海底地形は残存しているものの、エビアマモの分布域及び生育面積は、経年的に減少傾向がみられ、令和3年調査ではエビアマモを確認することは出来なかった。

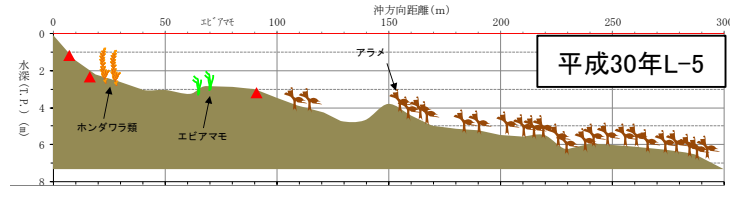
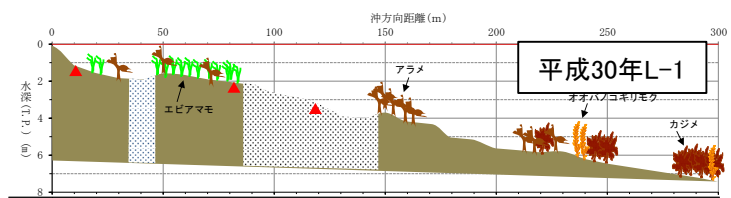




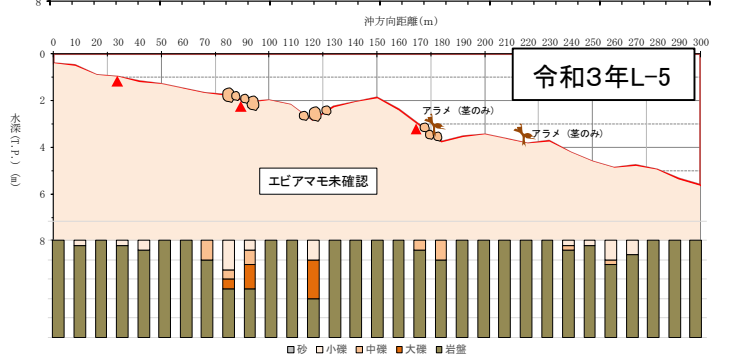
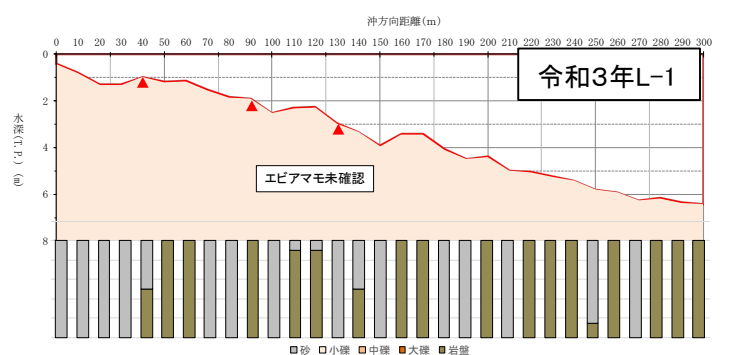
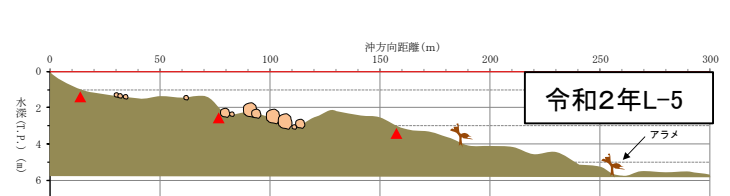
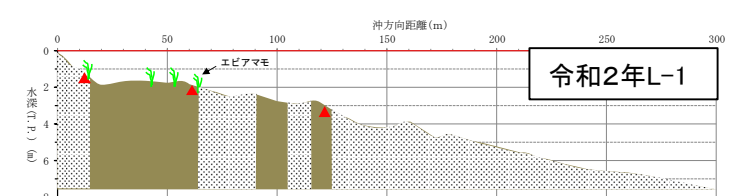
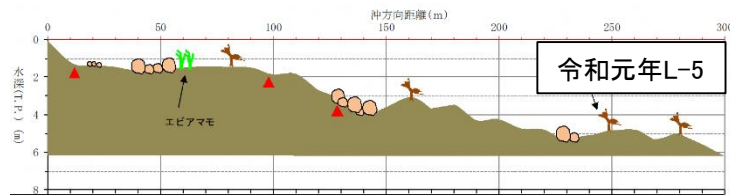
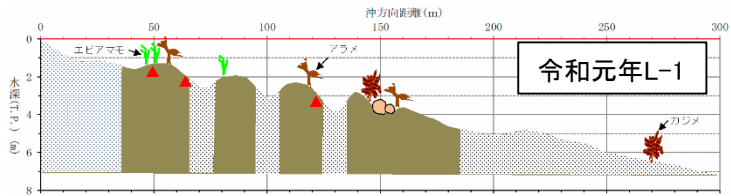
# ③藻場 藻場の経年変化

■ 既往調査測線の各水深ごとに、藻場や付着生物（植物・動物）等の生育・生長状況を把握。

L-1（鎌倉高校付近）は、底質の砂の割合が増加傾向であり、L-5（稲村ガ崎沖）では土丹のままであるが、いずれもエビアマモやアラメが減少傾向である。



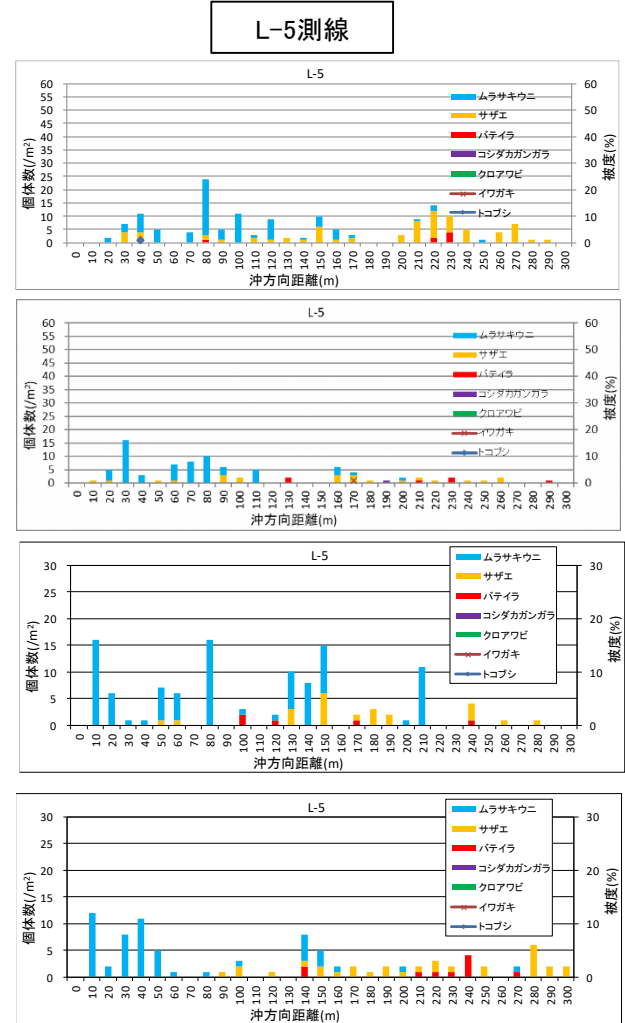
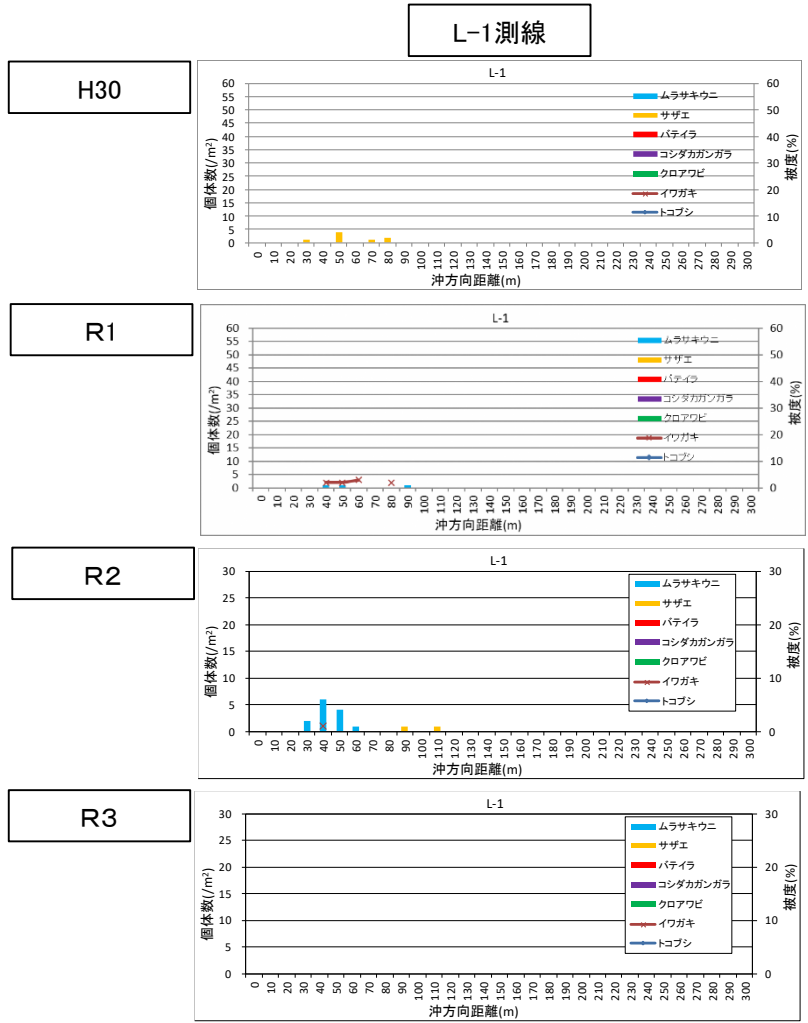
基質等 凡例	
	土丹 - R
	大礫 - P1
	中礫 - Pm
	小礫 - Ps
	砂 - Sd
	定量採取箇所



# ④水産有用種の経年変化（個体数）

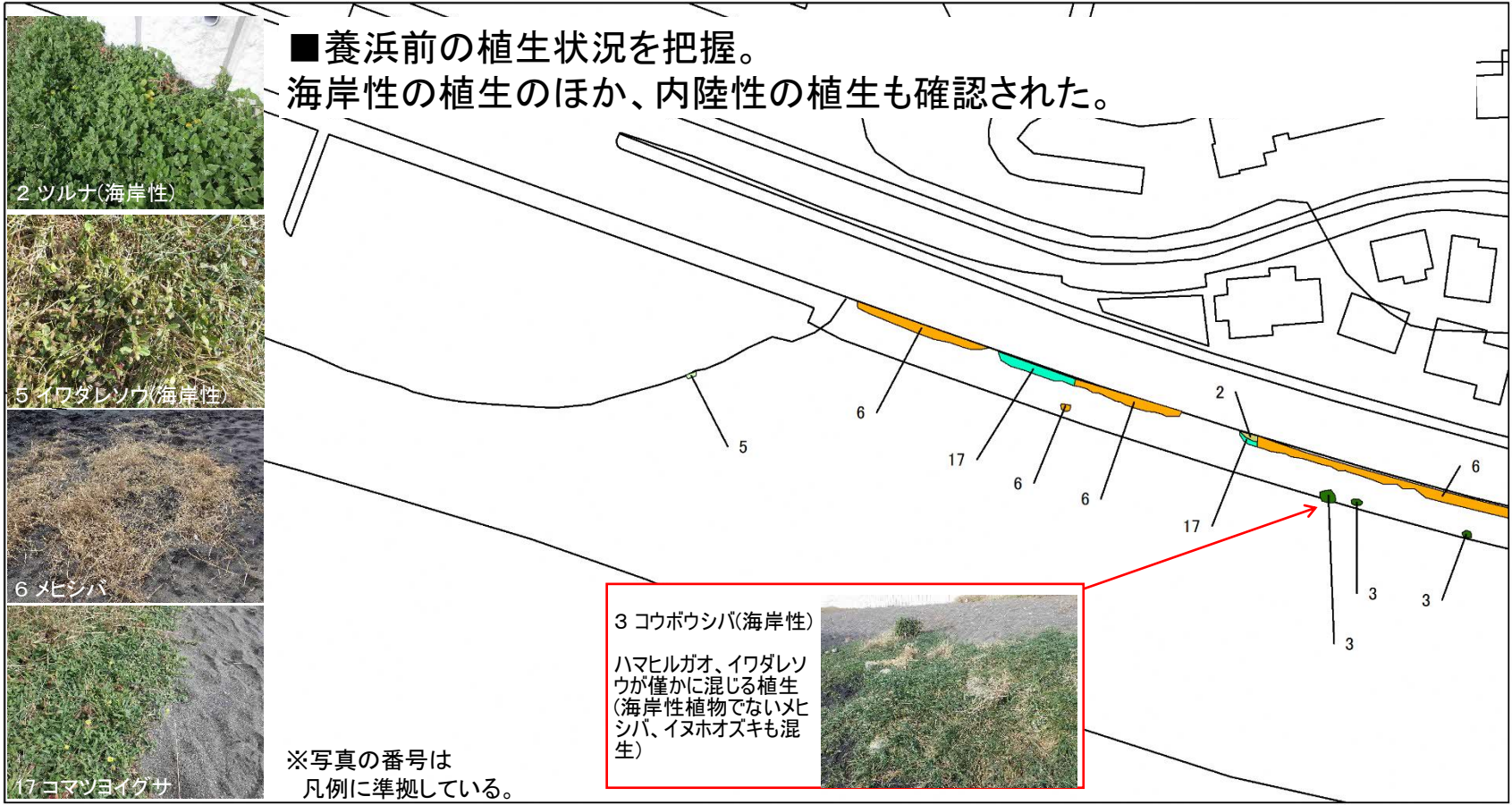
■既往調査測線の各水深ごとに、水産有用種の殻高、個体数等を把握。

L-1（鎌倉高校付近）では、H30の時点で水産有用種は少ない。L-5（稲村ガ崎沖）では水産有用種は維持されている。 ※水色はムラサキウニ。



# 稲村ガ崎（鎌倉プリンスホテル駐車場東側）の植生状況

■養浜前の植生状況を把握。  
海岸性の植生のほか、内陸性の植生も確認された。



凡例

1 エノシマススキ群落	6 メヒシバ群落	11 アズマネザサ群落	16 クコ群落
2 ツルナ群落	7 ハマヒルガオ群落	12 ヨシ群落	17 コマソヨイグサ群落
3 コウボウシバ群落	8 イソギク群落	13 アメリカカサブロウ群落	18 ハマカンゾウ群落
4 コウボウムギ群落	9 イナムラヨモギ群落	14 イヌビエ群落	19 モクビャッコウ群落
5 イワダレソウ群落	10 トベラ・シャリンバイ群落	15 イヌホオズキ群落	